

福島第二原子力発電所2号機取水口スクリーン装置の 近傍における油らしきものの浮き上がりの調査結果

<参考資料>
平成25年7月29日
東京電力株式会社
福島第二原子力発電所

平成25年7月29日、ダイバーによる水中調査を実施

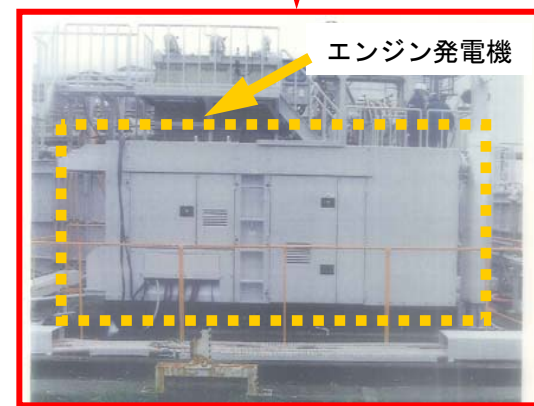
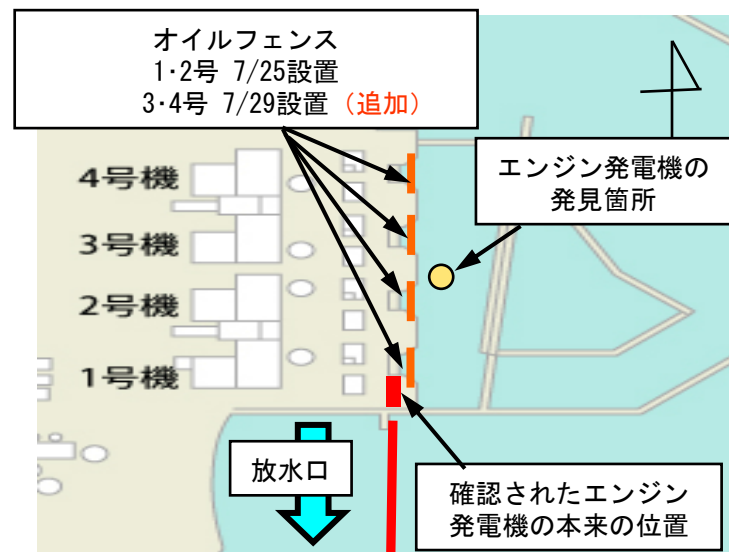
<調査結果>

- 当該の油らしきものが浮き上がっていた場所を含めて周辺の水中を調査したところ「エンジン発電機(高さ:約2.1m、幅:約4.3m、奥行き:約1.5m)」を確認。
- 当該エンジン発電機は仮設のものであり、本来スクリーンの南側に設置されていたが、震災時の津波により流出されていることが確認されていた。
- 本日の水中調査の際、エンジン発電機からの油らしきものの流出はないことを確認(水面でも泡状に浮き上がりがないことを確認)。
- 確認されたエンジン発電機の燃料タンクは別置き式であり、すでに回収済み。油らしきものが、本体に残っている潤滑油と仮定すると、保有量は最大約74L。
- 油らしきものが今後も流出する可能性も考えられることから、3・4号機の取水口についても、本日午前中にオイルフェンスを設置(1・2号は7/25設置済)。
- 引き続き、パトロールを行い監視していく。
- また、他のエリアについても水中調査を行い、油らしきものが確認された際は必要な対応を実施する。

<調査写真>



【撮影日】：平成25年7月29日
【撮影】：東京電力株式会社



発見されたエンジン発電機
(写真は震災前に撮影したもの)